

R4-15

生徒が主体的に考え行動できる防災・減災教育の充実

- 管内 オホーツク管内
- 分類 避難訓練 危険対応能力 防災訓練 その他（ ）
- 教育課程 教科（ ）科 道徳 総合的な学習の時間 特別活動
- 校種 小学校（低） 小学校（中） 小学校（高） 中学校 高等学校
- 取組のポイント

- 1 地域や関係機関と連携した防災学習
- 2 生徒が主体的に考え行動できる防災・減災学習

取組の実際

ねらい

- 地域の防災に係る学習を通じて、災害発生時に自分の役割を考え、行動できる生徒を育成する。
- 災害発生時に自らの命を守るための知識について理解を深め、主体的に判断して行動できる力を養う。

内容

1 地域や関係機関と連携した防災学習

災害発生時に自分の役割を考え行動できる生徒を育成するために、地域や関係機関と連携した防災学習を実施した。

北見工業大学と連携した地震のメカニズムについての学習、町消防署と連携した救命救急実習、町防災係と連携した防災倉庫の見学や段ボールベッドの組立実習、給食センターと連携した給食時における防災備蓄食の試食を行った。



【北見工大助教授による講話】

【救命器具を使用した実習】



【防災倉庫の見学】

【防災備蓄食の試食】

2 生徒が主体的に考え行動できる防災・減災学習

地域や関係機関との連携を図った様々な体験を通じて学んだことを生かすため、一日防災学校や修学旅行における被災地訪問を実施するとともに、その成果を防災学習発表会において、町の防災にどのように関わり、災害時にどのような行動ができるのかを地域や保護者に説明する場を設定した。



【一日防災学校の様子】



【被災地訪問の様子】



【防災学習発表会の様子】

成果と課題

- 地域や専門性の高い関係機関と連携することにより、生徒及び教職員の災害に対する意識に高まりが見られるとともに、危機管理意識が向上した。
- 小・中の連続性を踏まえた、防災教育のより一層の充実に向け、小中一貫校として、小学校と連携し、9年間を見通した防災教育の指導計画を作成する必要がある。